

『足利市の教育目標』設定に寄せて

「足利市の教育目標」が完成し、慶賀にたえません。5年間にわたる関係各位の誠意にあふれた御努力と御苦勞に対し、なによりも敬意を表したいと思います。また、教育目標の設定にあたって、調査や公聴会に参加するなど、さまざまな形で協力し、その意味で、市民自身の、市民自身による、市民自身のための教育目標を実現させた市民の皆様に対しても、心よりおよろこびを申し上げます。

いま、国においても、多くの地域においても、生涯教育への積極的な取り組みが始まっています。また、世界各国においても生涯教育は未来の教育の方向を示すものとして注目されています。その意味で、足利市が、生涯教育を振興する上で最も重要な人生各期についての発達課題という観点から、教育目標を他に先がけて設定したことは意義深いことです。しかも、足利市はこのような大事業を、行政サイドで一方向的に進めたのではなく、子供たちを含めた市民の参加と協力の下に行ったことは、我が国においてはもちろん、世界においても画期的だといえるでしょう。足利市の教育目標は、足利市の社会的、経済的、政治的な生活の課題と風土に根ざすものであると同時に、日本全体さらには国際社会の課題とも結びついたもので、各方面の注目を浴びることと思います。われわれとしましても、このような意義のある事業にかかわることができ、望外のよろこびとするところです。教育目標の課題の基礎となった「発達課題」をはじめて構想したシカゴ大学のR. J. ハヴィガースト教授も、このたびの足利市の教育目標のことを知られたら、さぞかしよろこばれるに違いありません。

ところで、このような素晴らしい教育目標も、各家庭、学校、職場、行政当局、さらには市民一人ひとりが、それぞれ自らの教育目標を設定する基礎として受けとめるのでなくては意味がないでしょう。「足利市の教育目標」設定のお祝いを改めて申し上げるとともに、これが真に生きたものとして具現化されるよう、関係各位の一層の御努力を期待する次第です。

昭和56年1月

お茶の水女子大学教授 河野重男
東京工業大学助教授 新井郁男